

研究種目：基盤研究（B）	
研究期間：2006～2008	
課題番号：18320106	
研究課題名（和文）	商家文書からみた地域社会の変容に関する総合的研究
研究課題名（英文）	General research on a change of the regional society by the merchants' documents
研究代表者	
宇佐美 英機（USAMI HIDEKI）	
滋賀大学・経済学部・教授	
研究者番号：60273398	

研究成果の概要：

滋賀大学経済学部附属史料館が保管する「馬場武司家文書」を整理し、文書目録を本報告書別冊として刊行した。あわせて「畑家文書」「西川伝右衛門家文書」の整理調書の作成と仮目録を完成した。

また、「伊藤忠兵衛家文書」の整理を継続させた。これにより馬場家文書・西川家文書は、公開利用が可能となった。他の文書群についても、文書目録の完成に目途がたった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総計	10,700,000	3,210,000	13,910,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

1. 研究開始当初の背景

滋賀大学経済学部附属史料館には、近江商人・近江地域史の研究・教育のために16万点を超える史料が保管されている。平成12年度以来、継続して科研費の補助を受け、2万点を超える史料を整理し、史料目録を完成させてきた。引き続き、閲覧希望が多いが未整理のため史料の出納ができなかった大型

文書の整理を行い、目録を完成させて公開利用に供するとともに、それらを用いた研究を推進するための環境を整えることを企図した。

2. 研究の目的

本研究は、近世・近代における商業・流通の実態と地域社会の変容の関わり方を総合

的・実証的に解明することを目的としている。この際、近江国(滋賀県)地域に伝存している商家(近江商人)文書と、主題に関連する地方・個人文書の調査を進め、それぞれを比較・活用できる環境を整え、近世・近代期の地域社会の変容を商業・流通構造の歴史的推移を中心として解明することを課題としている。

3. 研究の方法

(1)甲州・駿州を商い場とした馬場利左衛門(馬場武司家)文書を整理し、文書目録を完成させる。

(2)宿駅・助郷史料、鉄道敷設に関する史料を含む「畑家文書」の整理調書の作成を行い、仮目録を完成させる。

(3)蝦夷地交易に携わった「西川伝右衛門家文書」の再整理を行い、新目録の完成を目指す。

(4)「伊藤長兵衛家文書」の整理を終え、文書目録を完成させる。

(5)「伊藤忠兵衛家文書」の整理調書の作成と目録化の作業を継続する。

(6)以上の文書の整理・目録化作業を優先させながら、共同研究を実施し、文書群のもつ研究史上の意義について知識を共有する。

4. 研究成果

上記(1)については、本実績報告書別冊として 10,657 点の「馬場武司家文書目録」を刊行した。

(2)については、19,955 点の整理を終え、仮目録を完成させた。

(3)については、すでに公開されている旧目録を再点検し、新たに 5,814 点の仮目録を完成させた。

(4)については、約 8,000 点の整理を終え、平成 20 年 10 月に「伊藤長兵衛家文書目録」

を刊行した。

(5)については、研究期間中に約 8,500 点の整理を終え、整理を継続している。

(6)については、下記「5. 主な発表論文等」に記した成果をみた。

以上の成果によって、これまで閲覧・利用することが不便であった文書群の一部を収納できるようになり、研究・教育に活用できることとなった。これにより、研究が不十分であった甲州・駿州を商い場とした近江商人(馬場家)の営為を近世～近代の期間、詳細に分析することが可能となり、今後の研究の深化に寄与した。

また、伊藤長兵衛家の史料が利用できることとなり、戦前期の繊維専門商店の発展過程を分析できることとなった。同時に、当家は総合商社伊藤忠商事・丸紅の創業者である伊藤忠兵衛家の本家であることから、上記(5)の作業と並行して分析を進めることにより、従来の通説を書き改めることができるであろう。なぜなら、両家の文書は、これまでの当該研究において未知の史料群だからである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

①宇佐美英機 「初代伊藤忠兵衛の対米貿易事業」、高嶋雅明・天野雅敏編『近世近代の歴史と社会』(清文堂出版)所収、査読無、2009年、95-124。

②宇佐美英機 「井筒屋系店の出世証文」、『大阪商業大学商業史博物館紀要』、査読無、8号、2007年、1-9。

③宇佐美英機 「明治期山中兵右衛門家の奉

公人請状』、『彦根論叢』、査読無、365号、
2007年、124-144。

<http://libdspace.biwako.shiga-u.ac.jp/dspace/>

④青柳周一 「近世における寺社の名所化と
存立構造—地域の交流関係の展開と維持—」、
『日本史研究』、査読無、547号、200
8年、69-97。

⑤青柳周一 「人の移動と地域社会—「日蓮
宗の名所」化をめぐる—」、藪田貫・奥村
弘編『近世地域史フォーラム2 地域の視
点』(吉川弘文館)所収、査読無、2006年、
132-155。

⑥青柳周一 「近世旅行史上における近江国
—地域間関係史の視点から—」、『交通史研
究』、査読無、61号、2006年、51-
69。

⑦小川 功 「近江商人系資本家と不動産・
刊行開発—御影土地を中心として—」、『彦根
論叢』、査読無、375号、2008年、1
21-141。

<http://libdspace.biwako.shiga-u.ac.jp/dspace/>

⑧岩崎奈緒子 「『赤蝦夷風説考』再考」、『北
海道・東北史研究』、査読無、3号、200
6年、80-85。

[学会発表] (計1件)

青柳周一 「近世における寺社の名所化と存
立構造—地域の交流関係の展開と維持—」、
日本史研究会、2007年10月14日、立
命館大学衣笠キャンパス。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇佐美 英機 (USAMI HIDEKI)
滋賀大学・経済学部・教授
研究者番号：60273398

(2) 研究分担者

筒井正夫 (TSUTSUI MASAO)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：70180023

青柳 周一 (AOYAGI SHUICHI)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：40335162

小川 功 (OGAWA ISAO)

跡見学園女子大学・マネジメント学部・
教授

研究者番号：70252377

岩崎 奈緒子 (IWASAKI NAOKO)

京都大学・総合博物館・准教授

研究者番号：80303759

阿部 安成 (ABE YASUNARI)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：10272775

(平成18年度)

(3) 連携研究者

なし